



「ムーンライト富士」月が富士山の上に出ている情景（御殿場市足柄峠より）

月影の富士「ムーンライト富士」

●太陰暦

江戸時代まで日本では、月の満ち欠けの周期を1ヶ月として月日を定めていました。これを太陰暦と呼び、月の満ち欠けは平均29.53日、このため、現在、地球の公転周期から1年を定める太陽暦では、1年は365日ですが、当時1年は354日でした。また、太陽と違い、月は毎年同じ所を通過せず、およそ16年周期で元の位置に戻ります。昔の人は、月の様子や位置からも月日がわかりました。

●月影の富士の望み方

山頂に月が掛かる状態を月影の富士と呼ばれ、富士山を撮影するカメラマンの間でも話題になっています。

表紙上の月影の富士は、御殿場市の足柄峠から2月14日の午前6時23分頃に撮影されたものです。明け

方の赤富士の上に丸い月が掛かっていて、とても幻想的な雰囲気になっています。次に御殿場方面（足柄峠）からこのような明け方の「月影の富士」を望むには、2007年では、2月4日、9月28日などとなります。

表紙右下は、富士宮市人穴の東側より5月25日の午前4時30分頃に撮影されたものです。

月影の富士は日没や月の出の時間の関係で見える場所、時間帯が変化していきます。その為、カメラマンは皆、独自に、あるいは、インターネットなどを利用して月の動きを把握しているようです。

●月と富士山の姿

表紙写真の様に、月のク

レーターと、富士山の山肌がはっきり見えるように撮影するには、コツがあります。月は満月よりも十三夜がベストと言われ、時刻も日没5分前が、太陽に赤く染められた山肌がくっきり現れた状態で月も望めます。このような条件を満たさなければ見ることの出来ない月影の富士は、一見する価値がある景色のひとつではないでしょうか。



三日月と富士（富士宮市人穴の東側より）

写真提供／渡井 豊氏

富士山の基礎知識

本門寺用水50年顕彰祭

400年以上にわたり富士山南西麓に潤いをもたらし続け、現在も色々な役割をはたし続ける本門寺用水を紹介していきます。



本門寺用水の現在



本門寺用水絵図
(旧北山村文書)

など、様々な地域の可能性を引き出してきました。さらには、用水に掛けられた水車の動力によって社会生活や食文化の変革をもたらし、本門寺用水流域の集落規模の拡大・生活水準の向上などに大きく貢献しました。

富士山の砂防工事と本門寺用水

富士山には多数の浸食谷があり、「八百八沢」と呼ばれ、その最大のものが大沢川（無間ヶ谷沢）で、その浸食は山頂付近の大崩壊地「大沢崩れ」から始まっています。富士山の沢は、ほとんどが涸沢ですが、一旦大雨が降ると土石流が発生する危険な沢です。本門寺用水の維持管理は、大沢川（潤井川）・猪の窪川・邯鄲沢・竹沢・大久保沢等に発生する激しい土石流との戦いでもありました。

昭和44年から国土交通省により大沢川をはじめとして、富士山南西山麓の砂防事業が進められ、今では土石流は砂防えん堤や、沈砂地、遊砂地で受け止められ、下流への被害は少なくなってきました。平成12年に大沢崩れから発生した土石流では、下流の砂防施設で観測史上最大の28万m³もの土砂をおさえました。

麓の安全が確保されてきたことにより、本門寺用水では長年苦労してきた土石流による※2掛樋や※3埋樋の破損や、用水路を埋める土砂などの被害が少なくなってきました。さらに、潤井川流路工の完成によって、広い河原を渡さなくてはならない本門寺用水の難所、「上井出河原（潤井川）」の河道が定まり、堅固なサイホン（埋樋）が川底に敷設されました。そして、猪

の窪川も沈砂地工や河道改修工事など一連の砂防工事に伴い、埋樋が改修されました。

このように近年の砂防工事の進展によって、本門寺用水は土石流災害が減少したのみでなく、埋樋の改修工事がなされ、用水の安全性が向上しました。

本門寺用水顕彰祭

本門寺用水顕彰祭は、「本門寺用水ができ、地域が発展し、今日の我々の生活がある」ということを感謝する為の記念式典で50年に1回行われています。

北山用水運営協力委員会は、平成18年9月3日（土）、北山本門寺において、本門寺用水50年顕彰祭の記念式典を行いました。

当日は天候にも恵まれ、地元関係者、地元小中学生など200名以上の方々が出席しました。



孝行太鼓の演奏

本門寺執事長による法要に始まり、本門寺伝承の奉納太鼓を起源とする重須孝行太鼓の演奏や、用水記念碑の除幕式が行われました。

式典後には、本門寺用水50年顕彰祭の執り行われた意味を次代を担う地元小中学生にわかりやすく説明し、「次の50年後もどうか引き継いで開催して下さい」との心のこもった挨拶もありました。



地元の小中学校の生徒たち

本門寺用水開発の由来

天正10年（1582）3月、徳川家康は武田勝頼との戦いの際、北山に宿泊した折に、そこで北山本門寺貫首日出上人と出会い、家康は上人の「日出」という名に武運ありと感じ、御本尊を貸り受けました。

戦いの最中、武田方の撃った弾丸が御本尊の花押に当たり、家康は難を免れる事が出来ました。

同年5月、武田との戦いを制した家康は御本尊返却の折、日出上人に「所望する物があれば何なりと申し出られよ」と感謝の気持ちを表しました。日出上人は、当地が水に恵まれず生活が苦しいことを訴え、用水路の開発を請願しました。家康は直ちに井出甚之助正次に用水路を通すよう命じ、同年8月1日に工事を始め、内野横手沢より掘幅は3間（約5.4m）・全長2里（7.9km）余りの用水が、11月15日には完成しました。

本門寺用水の恵み

本門寺用水は、※1天水場の村々を水の豊かな村々へと変え、生産性の低い畑作地帯を水田稲作地へ変える



本門寺用水分水口

※1 天水場…灌漑（かんがい）用水がなく、雨水に頼って耕作する地帯のこと。 ※2 掛樋…樋（とい）を地上に設けて水を引く装置 ※3 埋樋…掛樋の逆で地下に樋を敷設する方法

富士山に暮らす

富士山南西麓における製紙業の発展

～富士地域が「紙の街」として全国に知れ渡った経緯～

はじめは三桠の栽培から

江戸時代の吉原宿は大名行列や旅人で賑わい栄えていましたが、明治になると宿場の制度がなくなり、そこで働いていた人達の生活は苦しくなりました。吉原で育った内田平四郎は人々の生活を良くする方法を探していました。そこで、富士地域では江戸時代中頃から富士川に沿って「駿河半紙」という手漉き和紙の生産が盛んな事を知り、和紙の原料である三桠(植物)を栽培し、それを売



三桠

て暮らしの助けにしようと考えました。折しも明治の文明開化による産業の発達により紙が沢山使われだし、外国への輸出も行われるようになり、三桠栽培はこの地方の特産物へと成長していきました。

明治12年依田原新田の栢森貞助は、

和田川沿いに富士山の湧水を利用した吉原で初めての手漉き和紙工場を設立しました。貞助は紙を白くする薬を求め研究し、苛性ソーダで三桠を煮、紙を白くする技術を発明しました。

明治19年になると芦川万次郎により、ガマ(湿地)と呼ばれる地下水のわき出るところで、この水を利用した手漉き和紙工場がつくられ、そこでは当時輸入品で高価だった苛性ソーダに代わって紙を白くする「さらし粉」を外国から安く取り寄せ使用するようになりました。また技術者を育てる「製紙伝習所」を設立し、多くの技術者が生まれ、さらに、原料の輸送や資材の調達などのために吉原、鷹岡、富士宮を結ぶ馬車鉄道が明治23年に開通し、大正2年には富士一大宮間に身延線が開通するなど、交通網の整備も進み、後の製紙業を発展させていく原動力となりました。

製紙業の発展と現在

その後、時代が昭和に移ると、紙の需要はさらに拡大を続け、現在日本は世界第2位の紙生産国となっています。そのような中、富士地区では、富士山を源とする豊富な地下水と、潤井川、芝川などの動力源としての落差の大きい河川の存在、そして充実した交通網などの恵まれた立地条件によって多くの製紙工場が進出していきました。現在富士市では、トイレットペーパーの生産量が日本一を誇るなど、製紙業は地域を代表する産業となっています。



工業地帯の風景

富士山に寄せる想い

「世界中に富士山に憧れる人がいる中で、富士山の麓で、富士山に見守られる中で育つことができたことに、誇りを感じます。」と語る富士市出身のかぐや姫クイーンの笠井美慧さんにお話をうかがいました。

— 現在、県外の大学に在学中とのことですが、県外から改めて地元を振り返ってみての感想を教えてください。

美慧さん 「地元における人と人の繋がりやの強さを感じ、この中で生きているということはとても温かいことです。個人が自立した上での支え合い、そしてそれに伴う責任、これからますます大事にしていきたいと思っています。」

— かぐや姫クイーンになってみての感想と活動内容を教えてください。

美慧さん 「みなさんに温かい声をかけていただくことが大変嬉しいです。感謝の気持ちを忘れずに、精一杯活動していきたいと思

います。活動内容は、富士市のイベントに参加させていただきPR活動をしています。」

— 美慧さんなりの富士山への想いを聞かせてください。

美慧さん 「今現在も進行し続ける大沢崩れ。子供の頃、始めて間近で見た光景に、富士山大丈夫だろうか…これがいつも見ている富士山?と思ったことを覚えています。

大沢崩れをめぐって様々な問題もあるようですが、私はこの富士山と大沢崩れと私達の共存をととても素敵なことだと思います。

大沢崩れのおかげで富士山と私達の距離が近づいたのかもしれませんが。視覚的な面だけではなく富士山の様々な内面を見つめていくことが大事だ

と考えています。もちろんそれは後世に渡って受け継がれていくべきだと思います。そして、日本だけでなく世界中の人々に、富士山のすばらしさを知っていただきたいと思っています。」



第21回かぐや姫クイーン 笠井美慧さん

プロフィール

第21回かぐや姫クイーン 笠井美慧さん
大学3年生。成人式の着付けをお願いした美容院の方に推薦して頂いたのがきっかけで応募し、かぐや姫となりました。

富士市に語り次がれる竹取物語

延暦年中(782年、805年)のこと、この龍畑の地に翁夫婦が住んでいた。翁を、里人は作竹翁、翁を、寒竹翁と呼んでいた。ある日、翁は竹の中から一余りの少女を授かった。その少女は育つに従い容顔美麗、無双の美女となり、かぐや姫と名付けた。

このことを知った国司は珍室をもつて招いたが、姫は応じなかつたため、わざわざ姫のもとに押し掛け、数年間を共に暮らした。ある時、姫は国司に暇をもらい、富士山の仙洞へ帰りたいと願ひ、荷を残さず、一つの荷を残して去ってしまった。国司は姫の去ったことを悲しみ、後を追ひ、富士山の頂に來てみると、大地が裂け、池の中には宮殿があり、出てきた姫はもはや人間ではなく天女で、姫のそれまでの容顔と異なっていた。是を見た国司は悲しみの余り、姫の身を投げ、死んでしまったという。

(比奈村古跡の条より)

平成17年度 優良工事表彰

9月11日(金)、富士砂防事務所が発注し、平成17年度中に完成した工事において、特に優秀な成績をおさめた施工者に優良工事表彰を行いました。

- ・優良工事施工者 富嶽経常建設共同企業体
(代表者: (株) 小松建設、構成員: (株) 望月建設)
- ・優良業務請負者 国土防災技術(株)
- ・優良技術者(工事) 西武建設(株) 名古屋支店 中野伊佐男氏
- ・安全工事施工者 西武建設(株)
- ・下請業者への感謝状授与 (有) 竹川建設



平成17年度 富士山 猪の窪沢渓流保全工事(富嶽経常建設共同企業体)

天竜川(長野県箕輪町)における堤防決壊箇所の応急復旧支援

富士砂防事務所では、平成18年7月19日(水)に決壊した、天竜川右岸(長野県上伊那郡箕輪町松島北島地先)堤防箇所の浸食の拡大を防止するための応急復旧の支援のため、大沢扇状地に備蓄しているブロックの搬送を行いました。

- ・搬送資材 5tブロック 347個
- ・運搬期間 7月20日～7月22日



天竜川右岸の堤防決壊現場

災害復旧支援協力会社への感謝状授与

9月11日(月)富士砂防事務所は、平成18年7月豪雨による天竜川の災害に際し、迅速な対応で災害復旧資材の運搬に貢献された協力会社に感謝状を授与しました。

協力会社名: 佐野藤建設(株) / (株) 望月建設 / (株) 小松建設

夏休み 富士山大沢扇状地 自然観察会 雨天による中止のご報告

8月9日(水)に予定されていた「夏休み 富士山大沢扇状地 自然観察会」は、雨天の為、中止となりました。

キャンプ砂防2006 in 富士山



富士山宝永火口に撮影

9月4日(月)～8日(金)までの1週間、全国から5人の大学生が富士砂防事務所の砂防体験学習「キャンプ砂防」に参加しました。
さまざまな体験を通して、砂防事業の役割と意義について学習しました。

9月25日「西湖いやしの里 根場」砂防資料館オープン

9月25日(月)、富士河口湖町の観光施設「西湖いやしの里 根場」に砂防資料館がオープンしました。富士砂防事務所では、この砂防資料館にパネル等の展示を行っています。



砂防資料館の外観



砂防資料館内のパネル展示

富士山総合学習及び現地見学会等結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
7月18日(火)	JICA各国	10	概要説明と扇状地見学
7月20日(木)	阿幸地区 阿幸地クラブ(高齢者学級)	50	概要説明(出前講演)
7月21日(金)	一般者	多数	気象協会主催台風フェア
7月22日(土)			
7月27日(木)	静岡新聞 富士宮支局	1	取材
7月27日(木)	子ども富士川流域交流会	101	扇状地見学
7月29日(土)	静岡市建設業協会	40	扇状地見学
7月29日(土)	一般者	多数	富士吉田市制祭パネル展
8月1日(火)	県立富士高校理科数科	40	大沢崩れ見学
8月2日(水)	富士常葉大学(教職員)	12	大沢崩れ見学
8月2日(水)	富士常葉大学(教職員)	13	扇状地見学
8月3日(木)	日本大学地球システム化学科	21	概要説明と扇状地見学
8月3日(木)	東京農業大学	4	扇状地見学
8月4日(金)	東京農業大学	4	大沢崩れ見学
8月18日(金)	神奈川県理科教員	17	扇状地見学
8月21日(月)	山梨県建設業協会	3	概要説明
8月23日(水)	芝川町小学生	2	概要説明
8月25日(金)	富士宮市芝川町婦人防火クラブ	30	概要説明と扇状地見学
9月1日(金)	東京農業大学	46	概要説明
9月6日(水)	富士宮市地域女性連絡会(広聴広報課)	39	概要説明と扇状地見学
9月7日(木)	石川県土木企業委員会	14	扇状地見学
9月9日(土)	三島市教育委員会主催イベント	45	扇状地見学
9月12日(火)	富士見ヶ丘区 富士見会(高齢者学級)	25	扇状地見学
9月13日(水)	御殿場養護学校 高等部	41	扇状地見学
9月14日(木)	富士常葉大学	27	大沢崩れ見学
9月19日(火)	北山財産区	20	大沢崩れ見学
9月29日(金)	静岡大学農学部	31	概要説明と扇状地見学

「富士砂防事務所インフォメーション」
～FMラジオにて情報発信中～

Radio 84.4fm Radio-f(ラジオエフ)



～富士山の基礎知識、富士砂防事務所が開催するイベント情報、防災情報等～
コミュニティFM「Radio-f」(84.4MHz) 毎週水曜日 17:40頃から5分間
「富士山について、こんな話を聞きたい」といったリクエストやお便りを募集しています。
宛先など詳しい情報はラジオホームページ(www.radio-f.jp)より、「富士砂防事務所インフォメーション」係までお願いします。

国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
担当/総務課長・小川、または調査課長・石原まで
TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9
TEL.0544-54-0236

私が担当しています

富士宮砂防出張所 技術係長
小柳 正明



大沢川扇状地等の砂防工事現場の担当をしています。
大沢扇状地では、大沢崩れより発生する土石流を扇状地内の砂防施設により土砂を堆積させ、下流域の災害を防止する工事を行っています。
これからも富士山南西山麓を土砂災害から守る砂防事業を実施していきます。

※本誌は再生紙と環境にやさしいインクを使用しています。